

(C) 東海テレビ放送

津端修一さん 90歳、英子さん 87歳
風と雑木林と建築家夫婦の物語
(ナレーション 樹木希林)

建築家夫婦の日常を記録したドキュメンタリー映画
『人生フルーツ』の上映会を開催します。
豊かに時を積み重ねた人生を送る
津端さんご夫妻の姿を通して、
「豊かな暮らし」とはどのようなものか
ぜひ一緒に感じてみませんか。

人生 フルーツ

Life is Fruity

人生は、だんだん美しくなる。



2024年9月13日(金)・14日(土)
午前の部 10:00-12:00 (受付開始 9:30)
午後の部 14:00-16:00 (受付開始 13:30) 本編上映時間
91分

会場 / みやぎ野パルク ※チラシ裏面のMapをご参照ください

定員 / 各回 16名 (先着順予約受付) 料金 / 500円 (飲み物付き)

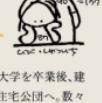
映画の後はお話し会 「建築家と考える、これからの住まい」



お申込み・お問い合わせは、
お電話またはメールで！ tel:022-373-5571 mail:info@soneken.co.jp



ふたりのこと



修一さん
1925年1月3日生まれ。東京大学を卒業後、建築設計事務所を経て、日本住宅公団へ。数々の都市計画を手がける。広島大学教授などを歴任し、自由時間評論家として活動。

英子さん
1928年1月18日生まれ。愛知県千葉市のお舗の造り酒屋で育つ。27歳で修一さんと結婚し、娘2人を育てる。畑、料理、編み物、機織りなど、手間ひまかけた手仕事が大好き。

ふたりの本

 <p>キラリとおしゃれ ～キラッキンガーデンのある暮らし～ つばた英子 つばたしゅういち著 (ミネルヴァ書房, 2007)</p>	 <p>あしたも、こはるびより。 つばた英子 つばたしゅういち著 (主婦と生活社, 2011)</p>	 <p>さきがたり ときをためる暮らし つばた英子 つばたしゅういち著 (自然食通信社, 2012)</p>
 <p>ひでこさんのからもの。 つばた英子 つばたしゅういち著 (主婦と生活社, 2015)</p>	 <p>ふたりからひとり ～ときをためる暮らし それから～ つばた英子 つばたしゅういち著 (自然食通信社, 2016)</p>	 <p>最新刊 2017年 11月17日 刊行</p>

むかし、ある建築家が言いました。
家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない。

愛知県春日井市の中高寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、篠であるアントニン・レーモンドの自邸に倣って建てた家。四季折々、キッチャンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手で美味しいごちそうにかわります。刺繡や編み物から機織りまで、なんでもこなす英子さん。ふたりは、たがいの名を「さん付け」で呼び合います。長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました。そう、「家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない」とは、モダニズムの巨匠・ゴルビュジエの言葉です。



かつて日本住宅公団のエースだった修一さんは、阿佐ヶ谷住宅や多摩平団地などの都市計画に携わってきました。1960年代、風の通り道になる雑木林を残し、自然との共生を目指したニュータウンを計画。けれど、経済優先の時代はそれを許さず、完成したのは理想とはほど遠い無機質な大規模団地。修一さんは、それまでの仕事から距離を置き、自ら手がけたニュータウンに土地を買い、家を建て、雑木林を育てはじめました——。あれから50年、ふたりは、コツコツ、ていねいに、時をためてきました。そして、90歳になった修一さんに新たな仕事の依頼がやってきます。

本作は東海テレビドキュメンタリー劇場第10弾。ナレーションをつとめるのは女優・樹木希林。ふたりの来し方と暮らしから、この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとじまります。

お申込み・お問い合わせは、お電話またはメールで！

心を満たす、木の住まい。
ソネケン tel:022-373-5571
mail:info@soneken.co.jp

[本社] 仙台市泉区八乙女4-9-7 [営業時間] 10:00-17:00 毎日営業



イベント会場：みやぎ野パルク / 萩城野区岩切2-1-14